

経営比較分析表（平成29年度決算）

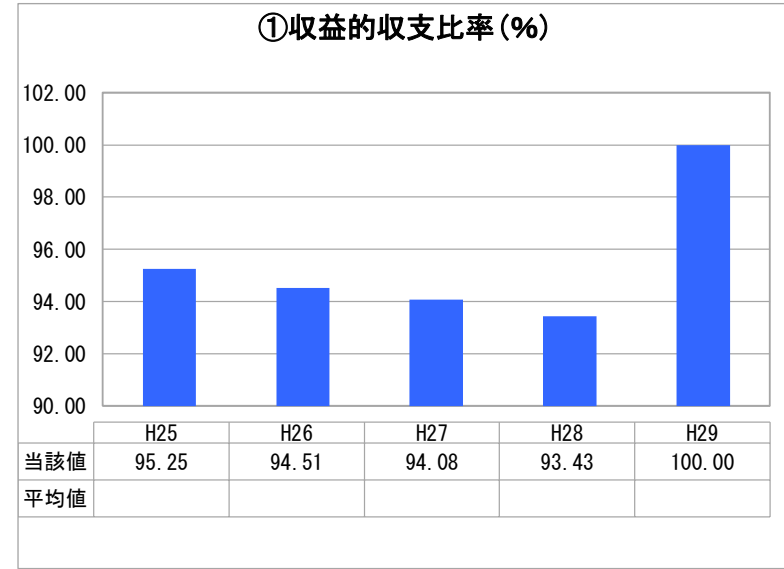
東京都 八王子市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定地域生活排水処理	K3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	0.28	100.00	3,340

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
563,178	186.38	3,021.67
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
1,593	53.58	29.73

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【】	平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



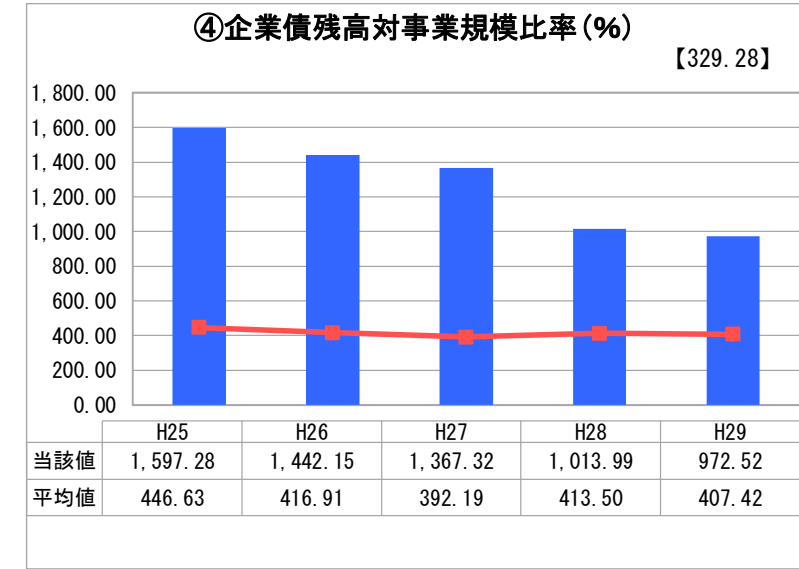
「単年度の収支」



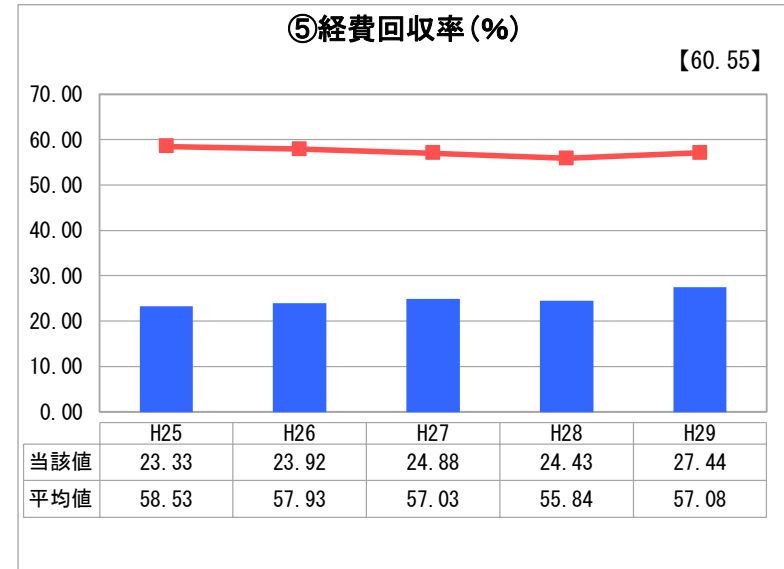
「累積欠損」



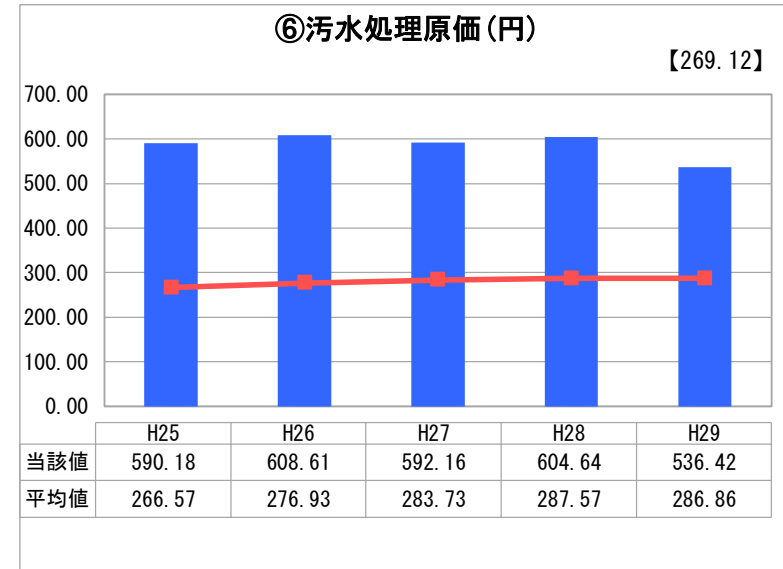
「支払能力」



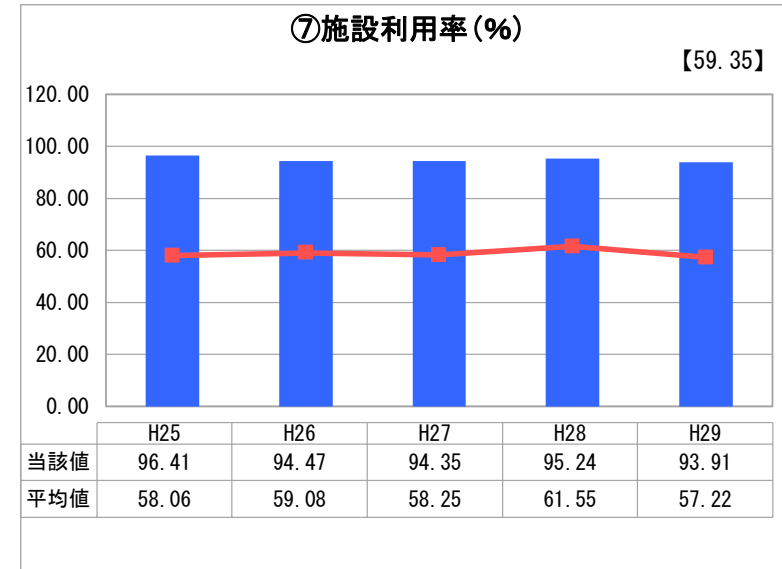
「債務残高」



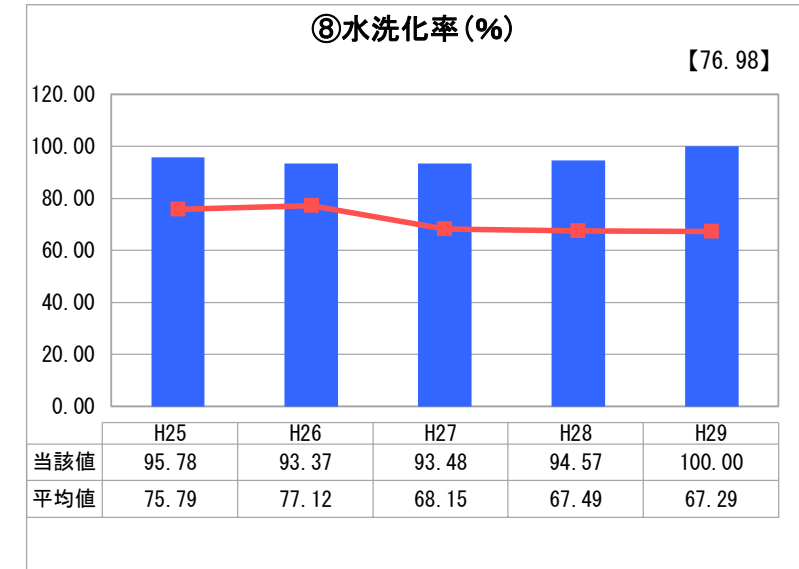
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

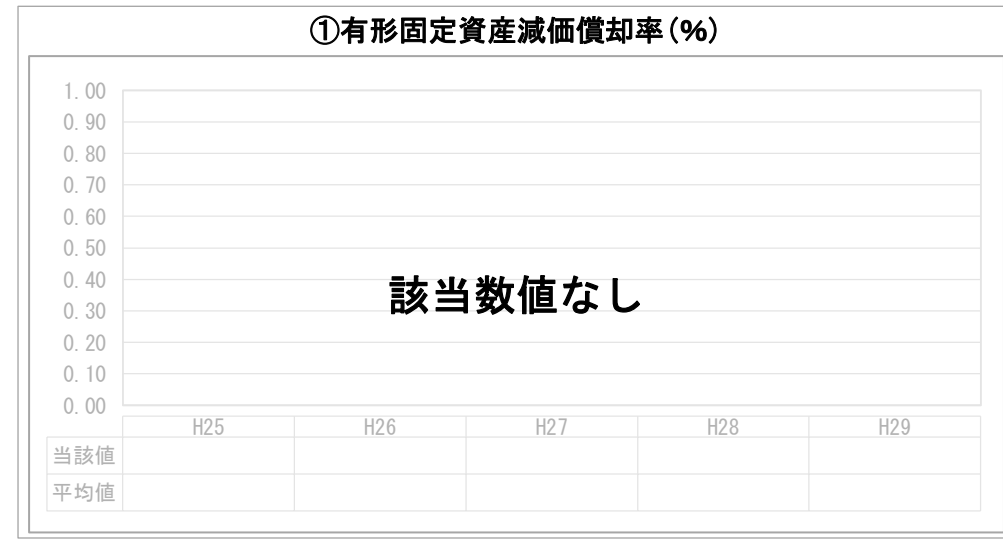


「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

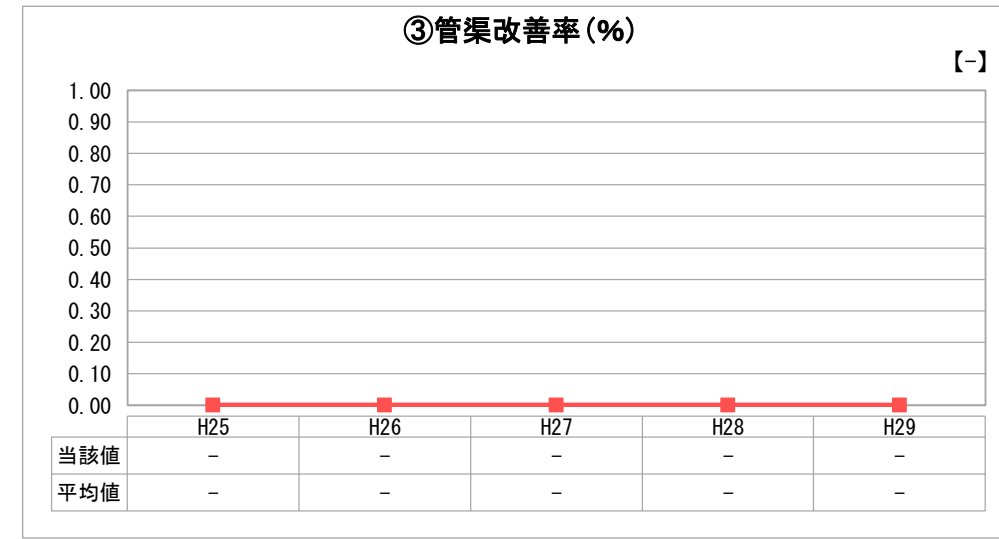
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本市では下水道事業の最適化の一環として、地域特性に応じた汚水処理施設の検討を行い、市街化調整区域の一部を浄化槽整備区域と定め、平成16年度より市設置型浄化槽の整備を推進している。経営の健全性については、①収益的収支比率は100%となったが、収益については一般会計繰入金79%を占めており、うち72%が基準外繰入金となっている。⑤経費回収率は前年度より3ポイント程度増加したが、依然として低く推移している。これは、単年度の収支では赤字補填の一般会計繰入金に依存しており、使用料収入が低いことが原因と考える。④企業債残高対事業規模比率について、集中して設備投資を推進したことから財源である企業債の残高が多く、類似団体より高い水準となっている。しかし、新規の設置基数が減少傾向であり、企業債の償還が借入を上回るため減少傾向にある。費用の効率性の観点から⑥汚水処理原価が類似団体を大きく上回っており、より一層の効率的な汚水処理に努める必要がある。施設の効率性では、⑦施設利用率及び⑧水洗化率が類似団体を上回っており、浄化槽の設置規模（人槽）や使用料対象の捕捉は良好と考える。

2. 老朽化の状況について

更新事業は実施していないが、電気設備などの修繕が増加する傾向にある。

全体総括

本市では、公共下水道と浄化槽の事業を併せて推進することにより、市内全域に汚水処理施設を整備し、公共用水域の水質の保全を図っている。このうち、浄化槽事業は総人口の0.6%を対象に実施しており、公共下水道事業との公平性を考慮した料金体系としている。そのため、使用料水準には課題を有しているが、一方で対象地域が河川の最上流に位置しており、環境への影響が大きいことから、汚水処理費の縮減に努めつつ、今後も確実に事業を推進していく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。
 ※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。